

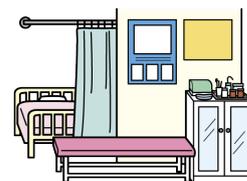
「別室登校支援」について

不登校の児童生徒がいる多くの小・中学校では、空き教室や保健室、相談室等を活用した「別室登校支援」が行われています。昨年度の調査や学校の聞き取りから、不登校の子どもが興味のある授業に参加できるようになった、別室に登校できるようになったなど、「別室登校支援」の効果が明らかになりました。「別室登校支援」は支援のゴールではなく、教室以外の場を利用した新たな支援のスタートです。学校への聞き取りにより、効果のあった実践例や「別室登校支援」のポイントをまとめましたので、参考にさせていただきますとともに、各学校におかれましては、「別室登校支援」の充実に努められますようお願いいたします。

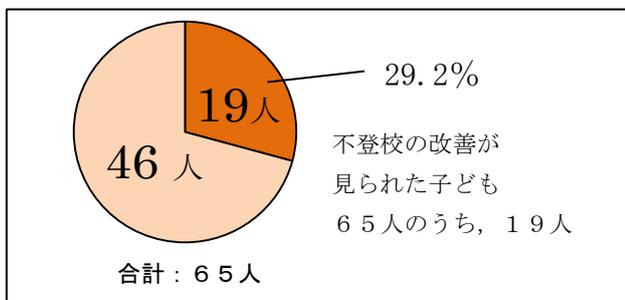
「別室登校支援」の効果

※1

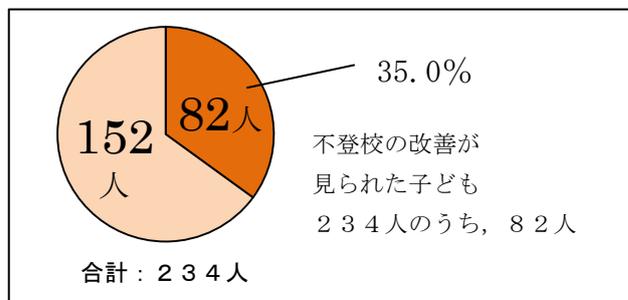
不登校の改善が見られた子どものうち、「別室利用」が特に効果が高かった割合



【小学校】



【中学校】



(平成29年度 宇都宮市調査)

※1 不登校の改善が見られた子ども

～ 各学校が、以下のような例を参考にして、個々の状況に応じて判断した者 ～

(例1) 1学期中は全く登校できなかったが、別室登校支援を始めたことで特定の教科の学習に興味を持てるようになり、2学期には、興味がある教科の授業がある日は登校できるようになった。

(例2) 中学2年生までは月に1回程度しか登校できなかったが、担任が家庭訪問を続ける中で、将来の進路などを自ら考えるようになり、その後、週に1回は別室に登校できるようになった。

「別室登校支援」の目的



子ども同士、教職員と子ども等、**様々なつながり**を大切にしましょう。

「別室登校支援」の目的を明確にすることが重要です

① 不登校にならないための支援

- ☆ 温かい心で子どもに寄り添い、**安心感**や**信頼感**が得られるようにする
- ☆ 子どもの思いをよく聞き取り、**気持ちの理解**に努める

② 教室復帰に向けた支援

- ☆ 活動や学習を通して、**意欲**や**達成感**が得られるようにする
- ☆ 教室の友人や、学校行事など、**「別室以外」とのつながり**を増やす

「別室登校支援」の実践例



「子どもの状態に合った」支援を行うことが大切です。

(1) 「個別のかかわり」を中心として、学校とつながりをもつことから始めている例

【 A 小学校 】

- ・ 保健室、図書室など、子どもにとって安心できる特定の場所で過ごす。
- ・ 参加できそうな学校行事に参加する

<主な支援者>

担任、養護教諭、教務主任 など

【 A 中学校 】

- ・ 保健室、相談室、特別支援学級などを利用して、人と話すことから、かかわりの機会をもつ。
- ・ 放課後に再び登校し、部活動に参加する。

<主な支援者>

担任、空き時間の教員、養護教諭、メンタルサポーター
特別支援学級の教員、部活動の顧問 など

(2) 安心して過ごせる場所を基盤にして、「かかわる人」や「活動の幅」を少しずつ広げている例

【 B 小学校 】

- ・ 担任と連携しながら、保健室で1日の予定を決定する。
- ・ 別室でドリルやプリントに取り組む。
- ・ かがやきルームで学習をする。
- ・ 学級で過ごせるときは、授業に参加する。

<主な支援者>

担任、SCM、養護教諭、教務主任 など

【 B 中学校 】

- ・ 空き教室を利用して、学習や読書、卓球など、取り組みやすい活動を行う。
- ・ スクールカウンセラーと面談をする。
- ・ 学校行事に参加する。
- ・ 興味がある特定の教科の授業に参加する。

<主な支援者>

担任、空き時間の教員、スクールカウンセラー など

(3) 特別支援教育コーディネーターやSCMが中心となり、複数の教職員がかかわりながら、

「教室復帰」に向けた支援を行っている例

【 C 小学校 】

- ・ 担任が活動内容を含めて1日の流れを計画し、特別支援教育コーディネーターが中心となり、支援を進める。
- ・ 校内の適応支援教室や、保健室、通級指導教室やかがやきルームなど、子どもの状態に合わせて柔軟な対応を行う。

<主な支援者>

担任、SCM、養護教諭、通級指導教室担当の教員
特別支援教育コーディネーター など

【 C 中学校 】

- ・ 校内の適応支援教室で、SCMがホームルームを行い、活動の内容を決定する。
- ・ 生徒指導主事が朝の状況を確認する。
- ・ 時間割に位置付けられた教員が対応して、学習や読書などの自主活動を行う。
- ・ 担任が必ず休み時間に声をかける。

<主な支援者>

担任、SCM、生徒指導主事、時間割に位置付けられた教員、特別支援教育コーディネーター など

「別室登校支援」のポイント



日頃から子どもの登校の状況や、別室での取組を共有しましょう。

支援の方針について児童生徒・保護者と共通理解を図るとともに、別室で過ごす子どもの様子や、別室での取組について教職員間で情報共有することが重要です。

評価 : See

- ・ 別室でのかかわりの様子や変容などについて記録を残す。

例) 日誌、連絡ノート 等

見立て
計画

計画 : Plan

- ・ 子どもの見立てを行い、個々の状況に応じた支援を計画する。

教職員の連携

実施 : Do

- ・ 役割分担を明確にし、チームで支援を行う。
- ・ 別室の1日の流れや、登校の状況が見えるようにする。

子どもの
実態把握

別室での
かかわり